



クイック スタート手順

ここでは、FWSM をルーテッド モードまたは透過モードで動作させるために最小限必要な設定について説明します。

- [ルーテッドファイアウォールの最小限の設定手順 \(p.xxxiv\)](#)
- [透過ファイアウォールの最小限の設定手順 \(p.xxxv\)](#)

ルーテッド ファイアウォールの最小限の設定手順

FWSM をルーテッド モードで設定するための手順は、次のとおりです。

	作業	説明
ステップ 1	Firewall Services Module への VLAN 割り当て (p.2-4)	FWSM がスイッチ上でトラフィックを送受信できるように、スイッチ上で FWSM に VLAN を割り当てる必要があります。
ステップ 2	(場合によって必要) MSFC への SVI の追加 (p.2-7)	MSFC を使用して、FWSM に割り当てられた VLAN 間でルーティングを行う場合は、この作業が必要です。
ステップ 3	Firewall Services Module との接続 (p.3-2)	スイッチの CLI から FWSM とのセッションを開始すると、FWSM の CLI にアクセスできます。
ステップ 4	(場合によって必要、マルチコンテキスト モード限定) マルチコンテキスト モードのイネーブル化またはディセーブル化 (p.4-11)	マルチコンテキスト モードを使用するが、FWSM がマルチコンテキスト モード用にまだ設定されていない場合、またはシングルモードに戻す場合、この作業が必要です。
ステップ 5	(マルチコンテキスト モード限定) セキュリティ コンテキストの設定 (p.4-20)	セキュリティ コンテキストを追加します。
ステップ 6	(マルチコンテキスト モード限定) コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え (p.4-24)	システム実行スペースで必要な設定およびコンテキスト内で必要な設定があるので、コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え方法を理解する必要があります。
ステップ 7	ルーテッド ファイアウォール モードのインターフェイスの設定 (p.6-3)	各 VLAN インターフェイスについて、名前 (内部または外部)、セキュリティ レベル、および IP アドレスを設定する必要があります。
ステップ 8	デフォルトルートの設定 (p.8-4)	アップストリーム ルータへのデフォルト ルートを作成します。
ステップ 9	次のいずれかの方法によるルーティングの設定 <ul style="list-style-type: none"> スタティック ルートの設定 (p.8-3) (シングルコンテキスト モード限定) OSPF の設定 (p.8-5) (シングルコンテキスト モード限定) RIP の設定 (p.8-18) 	マルチコンテキスト モードで使用できるルーティング方式は、スタティック ルーティングだけです。シングルモードでは、スタティック、RIP、または OSPF を選択できます。RIP のサポートはパッシブモードに限定されます。
ステップ 10	(場合によって必要) 次の NAT 方式から 1 つまたは複数を使用 <ul style="list-style-type: none"> ダイナミック NAT および PAT の使用方法 (p.12-17) スタティック NAT の使用方法 (p.12-27) スタティック PAT の使用方法 (p.12-29) 	プライベートアドレスを使用する場合、またはセキュリティを強化する場合は、NAT を設定します。
ステップ 11	拡張 ACE の追加 (p.10-8)	トラフィックが FWSM を通過するためには、事前にトラフィックを許可するアクセス リストを作成する必要があります。
ステップ 12	アクセス リストのインターフェイスへの適用 (p.11-5)	アクセス リストをインターフェイスに適用します。

透過ファイアウォールの最小限の設定手順

FWSM を透過モードで設定するための手順は、次のとおりです。

	作業	説明
ステップ 1	Firewall Services Module への VLAN 割り当て (p.2-4)	FWSM がスイッチ上でトラフィックを送受信できるように、スイッチ上で FWSM に VLAN を割り当てる必要があります。
ステップ 2	(場合によって必要) MSFC への SVI の追加 (p.2-7)	MSFC を使用して、FWSM に割り当てられた VLAN 間でルーティングを行う場合は、この作業が必要です。
ステップ 3	Firewall Services Module との接続 (p.3-2)	スイッチの CLI から FWSM とのセッションを開始すると、FWSM の CLI にアクセスできます。
ステップ 4	(場合によって必要、マルチコンテキストモード限定) マルチコンテキストモードのイネーブル化またはディセーブル化 (p.4-11)	マルチコンテキストモードを使用するが、FWSM がマルチコンテキストモード用にまだ設定されていない場合、またはシングルモードに戻す場合、この作業が必要です。
ステップ 5	(マルチコンテキストモード限定) セキュリティコンテキストの設定 (p.4-20)	セキュリティコンテキストを追加します。
ステップ 6	(マルチコンテキストモード限定) コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え (p.4-24)	システム実行スペースで必要な設定およびコンテキスト内で必要な設定があるので、コンテキストとシステム実行スペース間の切り替え方法を理解する必要があります。
ステップ 7	透過ファイアウォールモードまたはルーテッドファイアウォールモードの設定 (p.5-17)	値を設定する前に、ファイアウォールのモードを透過モードに設定する必要があります。モードを変更すると、設定が消去されます。マルチコンテキストモードでは、各コンテキストでモードを設定します。
ステップ 8	透過ファイアウォールインターフェイスのパラメータの設定 (p.6-5)	各 VLAN インターフェイスについて、名前 (内部または外部)、セキュリティレベル、およびブリッジグループを設定する必要があります。
ステップ 9	IP アドレスのブリッジグループへの割り当て (p.6-7)	各ブリッジグループに IP アドレスを割り当てます。
ステップ 10	デフォルトルートの設定 (p.8-4)	管理トラフィックを戻すために、アップストリームルータへのデフォルトルートを作成します。
ステップ 11	拡張 ACE の追加 (p.10-8)	トラフィックが FWSM を通過するためには、事前にトラフィックを許可するアクセスリストを作成する必要があります。
ステップ 12	アクセスリストのインターフェイスへの適用 (p.11-5)	アクセスリストをインターフェイスに適用します。

